

S H I M I N P H O T O

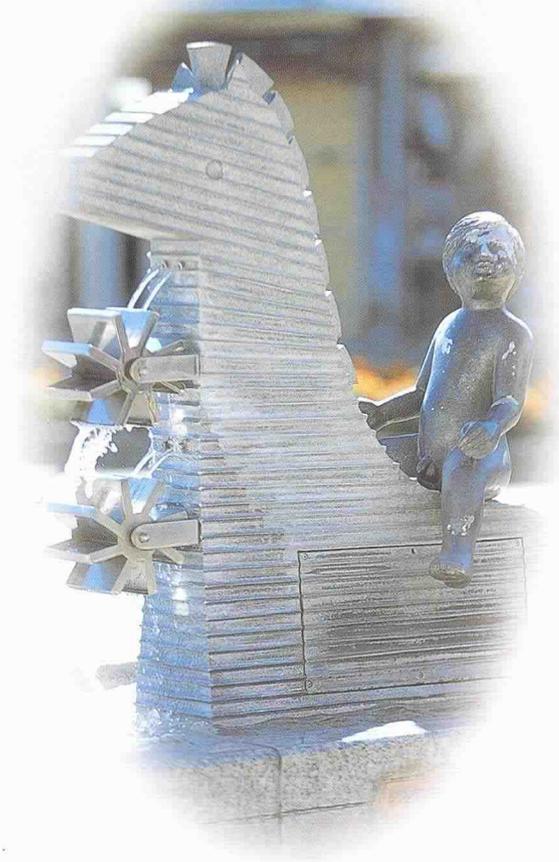
市民フォト

KAGOSHIMA

鹿児島

NO. 87

平成14年1月1日発行



噴水彫刻  
【子供と馬】  
～大明丘三丁目～

## CONTENTS

「特集」人と心と心でつなぐまち	3
クローズアップ	12
吉津 剛さん	
ハロー鹿児島	14
マクマレイ・デビッドさん	
カメラトピックス	16
学校探訪	18
西陵中学校	
私の好きな場所	20
西 みやびさん	
ふるさと再発見	22
市役所本館	
あなたのフォトサロン	24
鴨池写真友会	
よかタイム	26
稲盛 勝也さん	
街角ウオッチング	27
永田川周辺	
道具ものがたり	28
オート三輪	
館のたからもの	29
維新ふるさと館	
わが町上空今むかし	30
中央公園付近	

### ★表紙写真説明

「オッソコンボ」。旧暦の初市で売られる縁起物。無病息災と家族みんなの幸福を願う。余分に幸福が来るよう、家族の数より一つ多く買う。

【特集】

# 人と人・心と心でつなぐまち

笑顔・元気・夢…。

私たちの住む鹿児島。

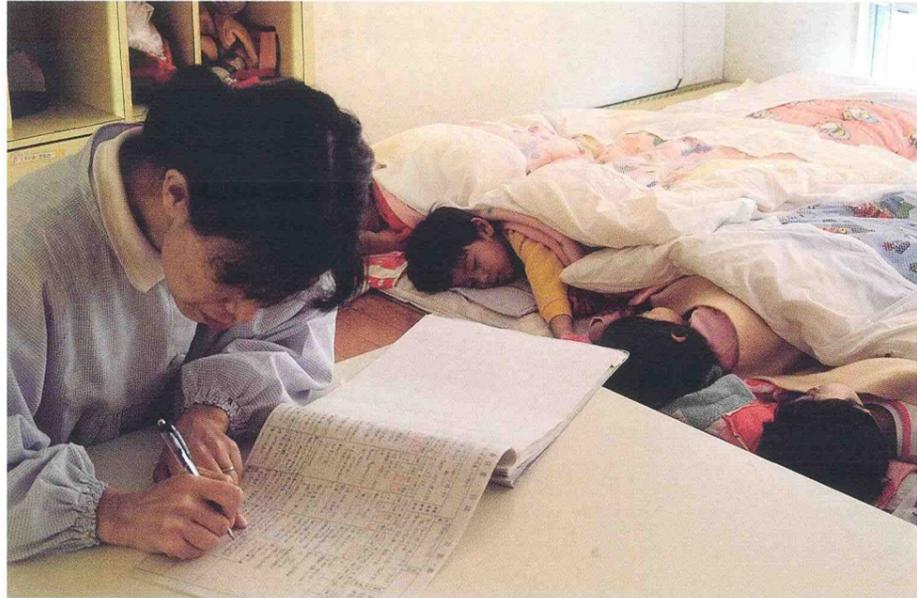
いたるところにつなぐ風景がある。

そこには必ず人がいて、心がある。

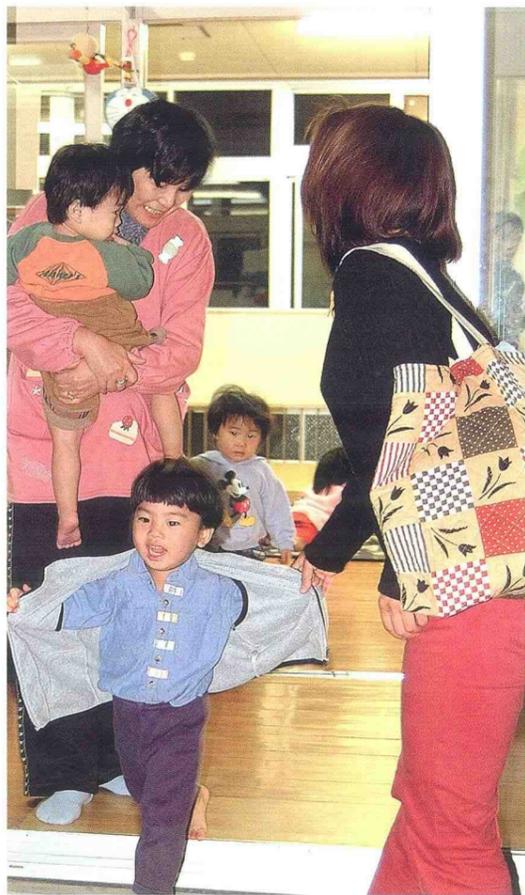
そして、つなぐものもさまざま。



午後1時から約2時間は午睡(お昼寝)の時間。  
先生たちはこの間に連絡帳を書く



親子仲良く登園。ピークは  
午前8時30分から9時までだ  
が、7時すぎに来る子どもも  
いる



お迎えの時間は外が暗くなるころ。  
母親を見つけて部屋から駆け出してくる子どももいる

市立の春日保育園には、100人前後  
の子どもたちが毎日やってくる。非常  
勤を含め21人の職員たちは、朝から夜  
まで、子どもから目を離さ  
ず、笑顔と安全を心がけな  
がら働く。ゆつくりできる  
時間はほとんどない。仕事  
に誇りと責任を持って、親  
が迎えに来るまでの時間を  
園児たちとともに過ごす。



保育の合間をぬって、職員室で毎日のスケジュールや、  
今後の予定などを確認し合う



おゆうぎ会の発表に向け、最後のリハーサル。先生たちは、  
指導や着替えに任せてご舞いだ

働く親にとって、子どもを預かって  
くれる保育園の存在は心強い。保育  
園は、親と子どものパイプ役として、  
子どもの夢を育む場所として欠かせ  
ない。保育に関わる保育士たちのひ  
たむきな姿は、子どもの目にどう映  
るのだろうか。



子どもたちが楽しみにしている給食。  
もも組はまだ一人で食べられない子も多い

# 保育園は 親子の日常を 支援する



CD制作記念パーティーに集まった人は約60人。  
久しぶりの再会に、話も弾む

「市電に乗って街をながめてみたい」。  
一人の障害者の声がひまわり電車を  
走らせる会結成のきっかけ。昨年末、  
テーマソング『路面電車が走る街』のC  
Dが完成。制作記念パーティーで披露  
された。一つの目的のために集まった  
仲間の絆は、歌を通してまた一つ深  
まってきた。



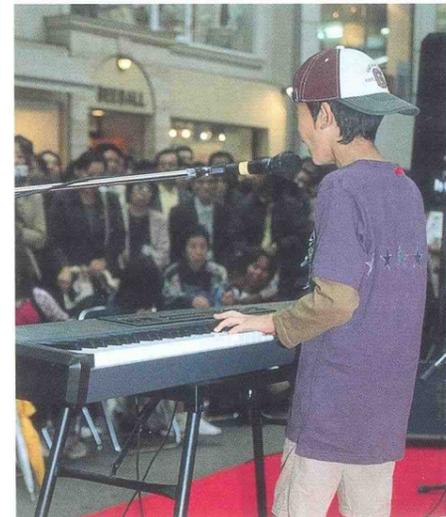
テーマソングのレコーディングで、朗らかに歌う面々。  
みんなの想いが1枚のCDを完成させた

# ふれあいと歌声が 心をひとつにさせる



フェスティバルには約2万8千人が来場。移動入浴車の実演は、  
多くの人たちの関心を集めた

「見て 聞いて ふれ  
あつて やさしさと思い  
やり」が福祉ふれあい  
フェスティバルのテーマ。  
ボランティア国際年の  
今年は、節目の第10回。  
笑顔と笑顔の交流が、  
立場や世代を超えて  
お互いの心を一つにし  
た。一方、天文館アー  
ケードでは、「バリアフ  
リー天文館」も開かれ、福祉施設の展  
示即売・街頭コンサートなどにぎ  
わった。



バリアフリー天文館の街頭コンサート。  
少年の魂のこもった歌声は、街行く人  
たちをくぎ付けにした



子どもたちに竹笛づくりを指導するお年寄り

# 伝統は現代へ そして未来へ受け継がれていく



カット作業は分担作業。  
おのおのが確実に仕上げ  
なければならない



職人は全部で20人。20代から40代までの若い世代が精力的に働いている。成形やカットなど、それぞれの作業を分担しながら一つの切子を作り上げていく。伝統を守ろうとする真剣なまなざし。静かな工房の中に張りつめる緊張感。職人の技術が伝統を受け継いでいく。

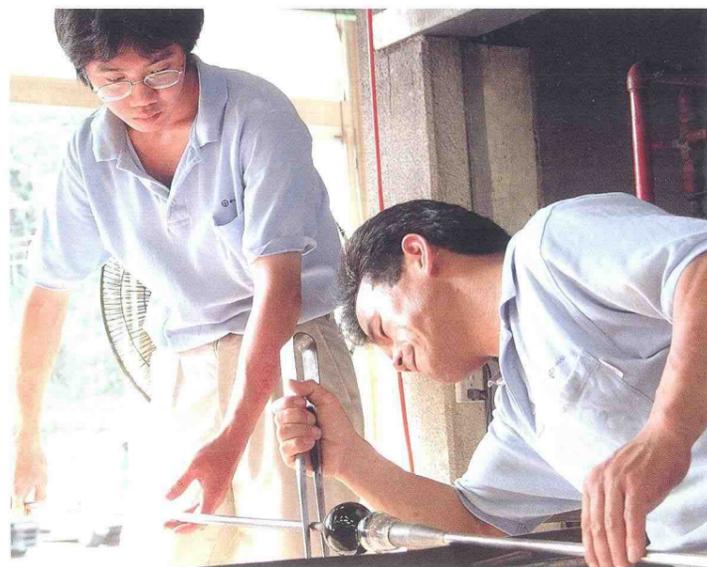


完成した薩摩切子。  
復元(左)、創作(中央)、二色被せ(右)など、  
種類も用途もさまざま



毎日の朝礼では、作業日程や注意点などが和やかな雰囲気の中で話し合われる

約140年前、薩摩藩主島津斉彬が薩摩切子の製造を始めた。その後、世界に誇るガラス工芸の歴史は途絶えなかったが、昭和60年に復元に着手。工房はゆかりの地、磯にある。  
職人たちは、薩摩の伝統工芸を守りつつ、これからの時代にマッチした切子づくりにも取り組んでいる。



高温で溶かされたガラスを吹き竿から吹き竿へ移し取る作業は、2人の息が合わなければうまくいかない



# 市長に聞く

**親子のつながりは 語らいの中にある**

親と子が何でも語り合える家庭には、温かさが満ちています。また、いろいろな悩みことや学校での出来事などを気軽に親に相談できる家庭環境は、子どもにとって最高の幸せです。何といっても、親子の絆ほど強いものはないと思います。その語らいの中から心豊かな子どもさんが育つと思います。何でも話し合える親子でありたいですね。

**地域のつながりは まずあいさつから**

地域づくりの基本は、あいさつでしょうね。お互いが親愛の情を持って、地域で生活することが、助け合いの心を生み、心が通い合う地域づくりにつながると思いますね。それから、自分の住むところにふるさと意識を持つことも大事でしょう。そして、そのふるさと意識が、「みんなが地域をよくしよう」ということにつながっていくのではないのでしょうか。

**市民と市政は**

**信頼でつながっている**

市政にとって、市民から信頼されるこ



とが最も大切です。私は常に「市政の主人公は市民」であることを基本にして、市民とともに仕事を進めていきたいと念じています。それには、市民の方々に市政を信頼していただけるような、清潔で公正な市政にしなければなりません。親子や、地域のつながりと同じように、心と心の通い合う市政を運営していきたいと思っています。

## 玉里団地二丁目 鈴木 重温さん 子どもたちを地域づくりの主役へ



昨年11月、せばる公園で開催された第9回せばる集人舞まつり

せばる集人舞保存会  
は、平成4年に結成されました。催馬楽(せばる)地区に伝わっていた集人舞を復活させ、地域おこしに役立てたいと思ったのがきっかけです。今回も、幼稚園児から大人までそれぞれの世代の「舞い」を披露しました。小学校や中学校には、集人舞の同好会があり、高校生は

学校の授業が終わってから、校区公民館で5回ほど練習しました。  
子どもたちが熱心に取り組む姿は、見ていてうれしくなります。地域づくりのためには、大人だけでなく、子どもたちの力も必要なことをしみじみ感じています。

# 懸命な姿が真心を伝える



## 南林寺町 宮崎 己芳さん 旬の魚を消費者へ提供



昭和38年の旧魚類市場。現在(城南町)の市場の5分の1ほどの広さしかなかった

私が魚類市場で働き始めたのは、終戦後まもなくです。昭和42年に今の場所に市場が移転するまでは住吉町にありました。質より量の時代で、自転車に付けたリヤカーは買った魚ですぐに一杯になったものです。朝6時から朝のせりに合わせて、4時に起きるのは、昔も今も変わりません。せりが公平で

スムーズに行われるよう気配っています。  
冬の魚は脂がのつて、鍋物などにも最高です。朝が早く、寒さも身に染みますが、食卓を囲む家族の笑顔を思い浮かべながら、生涯「魚屋」を続けていきます。

# 目標は世界。

## ハンマー投げに

### 青春をかける



県立鹿児島南高校3年生

## 吉津 剛さん

**略歴** 菱刈町出身  
中学校から投てき競技を始める  
現在、県立鹿児島南高校3年生、陸上部所属  
平成13年宮城国民体育大会、ハンマー投げ  
少年男子の部で優勝



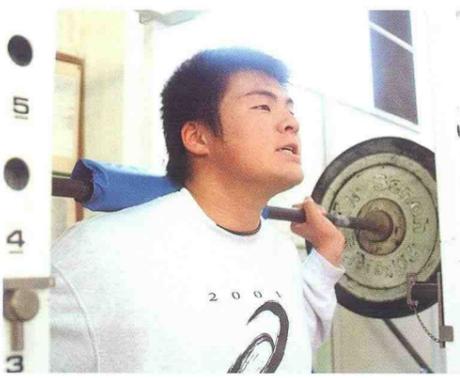
昨年の宮城国体で、一人の選手が表彰台の一番高いところ<sup>チム</sup>に立った。少年男子ハンマー投げ。記録は、63<sup>歳</sup>40。自分の弱さを乗り越え、焦らず着実に出した結果だった。

### トップを目指して

身長178<sup>センチ</sup>、体重100<sup>キロ</sup>という全国レベルでも引けをとらない体型を誇る。10歳年上の姉が砲丸投げの選手だったので、小さいころから投てき競技には慣れ親しんできた。

初めて砲丸投げに挑戦したのは、中学校1年のとき。もともとはバレーボール部だったが、学校から県の記録会に出るよう誘いを受け出場し優勝。その後、陸上部に入り、当時、星峯中学校に勤務していた河野優一先生にアドバイスを受け、驚くほど記録を伸ばす。河野先生には今でもコーチとして指導を受ける。

高校に入り、ハンマー投げに転向。「彼の身体能力、体型をも含めて、日本一になれるのはハンマー投げがいい



▲60kg~200kgまで、段階的に重さを変えてトレーニングする

と判断した」と、鹿児島南高校の瀬戸口良一監督は語る。

ハンマー投げは、ほかの投てき競技に比べ、技術が格段に難しい。「走る、投げる、跳ぶなどの技術は、人間に本来備わっていますが、回るといふ技術はないんですよ」。トップを目指して、人の3倍、4倍もの練習を重ねてきた。鉄さびでぼろぼろになった彼の手がそれを物語る。

### ハンマー投げは孤独だ

「ハンマー投げは孤独なスポーツ」。競技場内に入ると、監督やコーチは声

を掛けることすらできない。静寂の中、直径2・135<sup>メートル</sup>のサークルに入り、6・351<sup>キロ</sup>、直径100<sup>ミリ</sup>の鉄球を投げる。自分との闘いだ。

その闘いに、高校3年の夏のインターハイでは負けてしまった。優勝が期待されていたながら4位という成績に終わった。

「いつもどおりに投げられていれば、負けるはずはない試合だった。きつと、プレッシャーに負けてしまったんですよ」と、当時を振り返る。それからしばらく通常の練習とは離れ、初めてメンタルトレーニングにも取り組んだ。

そして、10月の国体。「二度負けたから、そんなに硬くならなくてもいい」。メンタルトレーニングの成果も試された。

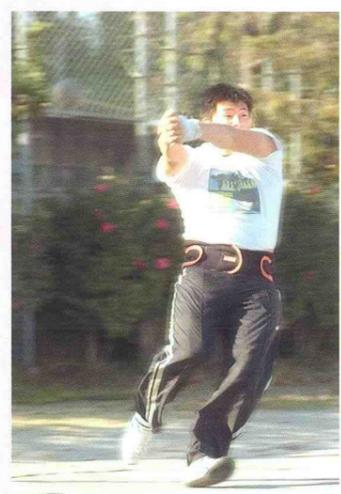
1投目は59<sup>メートル</sup>80<sup>センチ</sup>で前回敗れた選手に次ぐ2位でのスタート。2投目はフアウル。そして、3投目、63<sup>歳</sup>40の記録を出し1位に輝いた。公式での自己ベストである。

### 世界を見たい

なぜ、この競技を続けるのか。そんな質問を彼にぶつけた。「勝つ喜びを知っているからでしょうね」という答えが返ってきた。「全国に行くと、自分と同等かそれ以上の選手と競えるのに、刺激を受けます」。

また、彼はキャプテンとして陸上部をまとめてきた。監督も、彼の温厚さ、誠実さ、気配りは評価している。「これから先、壁に当たることもあっても、インターハイの経験で培った精神的強さをばねに、次のステップにあがってほしい」と監督は願う。

「目標は世界」。そうきっぱりと話す彼の瞳に、世界の舞台で活躍する姿が見えた気がした。



▲ハンマーがうなりをあげて、体から離れる



【俳句の先生はカナダ人】

マクマレイさんは鹿児島国際大学国際文化学部で教鞭をとっている。異文化研究が専門で、昨年10月からは国際俳句の講義も受け持つ。「国際俳句の講義は全国で唯一」と言う。

また、インターネットによる句会も主宰し、全世界に向けて国際俳句の魅力を発信している。

鹿児島に来たのは平成12年4月。家族との食事の途中、レストランから見た桜島にびつくりしたそうだ。

「突然噴煙を上げたので、思わずウエイトレスを呼んで安全なのか尋ねました」その桜島が今では大好き。

「桜島や錦江湾、鹿児島には豊かな自然があり、四季折々で違う表情を見せますね」俳句の題材には事欠かないようだ。

【国際俳句って何?】

さて、国際俳句とはどのようなものなのだろうか?

「国際俳句は3行の英語でつづる不定型詩。厳密に統一されたルールはありません。音節にして3・5・3となるように作り、季語も詠み入れるようにします」

「俳句の心を鹿児島から  
世界に伝えたい」

分かりやすく、マクマレイさんの俳句を紹介しよう。

*In their baths  
Along lavender lane  
Neighbours sing*

【日本語訳】  
歌声やラベンダー浴ひの風呂場より  
(季語はラベンダー。季節は夏)

情景が目には浮かぶだけでなく、風呂場からの歌声やラベンダーの香りまでが伝わってくるようだ。ルールにこだわる必要はありません。感じたことをシンプルな言葉で気軽に詠んでみることで

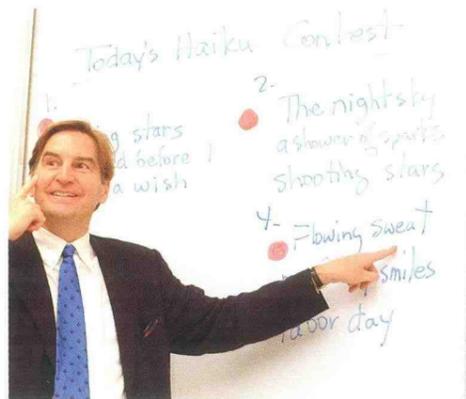
【文武両道】

日常の何気ない情景を俳句で表現するマクマレイさん。繊細な感性の持ち主だが、体格のよいスポーツマンでもある。「仲間と一緒にテニスを楽しむほか柔道も習っています。柔道は黒帯。先生がちよっとおまけしてくれたのかもネ」と思わずらっぽく笑う。

*Reaching out to you  
Across the Milky Way  
Keyboard fingers*

【日本語訳】  
銀河越えて届けよとキーボード打つ指  
(季語は銀河。季節は夏)

【世界に広がれ、国際俳句の輪】  
インターネットにより、国際俳句を通じた異文化との交流は限りなく広がる。最後にマクマレイさんお気に入りの俳句を一句。



マクマレイ・デビッドさん  
【カナダ出身】

HELLO  
KAGOSHIMA  
ハロ-鹿児島

マクマレイさんの好きな言葉

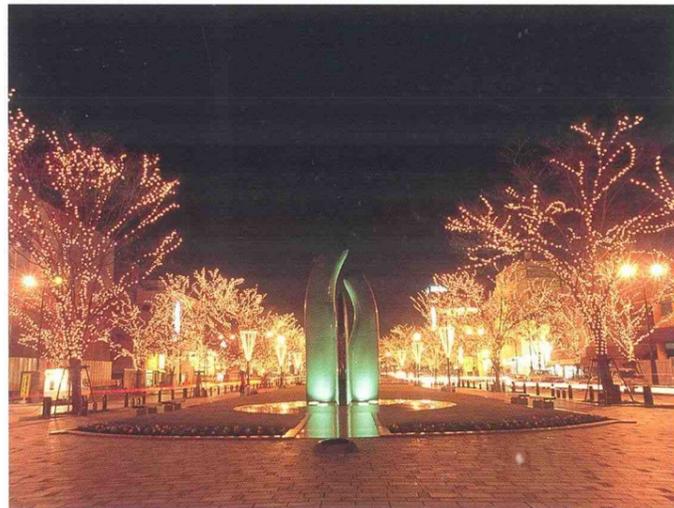
- Oh, what a beautiful morning.  
何と素晴らしい朝だろう!
- It's good to be alive.  
生きてるって素晴らしい。
- Don't worry, be happy.  
心配ないよ。楽しいこう。
- Learn from nature.  
自然から学ぶ。



ススキ(東坂元一丁目)



12月6日 在ナポリ日本国名誉総領事ら表敬訪問  
京都、神戸で開催される火山会議に参加するため来日。防災  
火山対策を学ぼうと本市を訪問しました



12月中旬 みなと大通り公園イルミネーション  
昨年12月1日から、64本のケヤキにおよそ11万6千球が点灯。1月末  
まで楽しめます



11月23日～24日 科学の祭典鹿児島2001  
イベントでは、親子連れなど1万346人が、科学実験や工  
作などを楽しみました



イチョウ(東千石町)



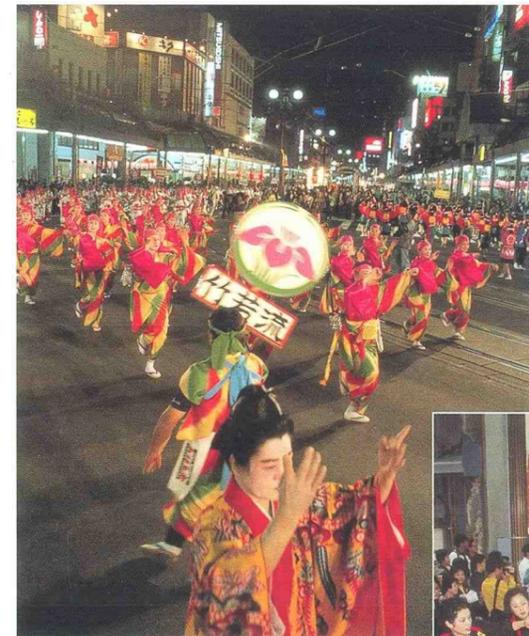
12月1日～2日 本館正面玄関に記帳所設置  
皇太子ご夫妻に待望のお子様が生まれ、  
2日間で1635人が、お祝いの記帳をしました



コスモス(都市農業センター)



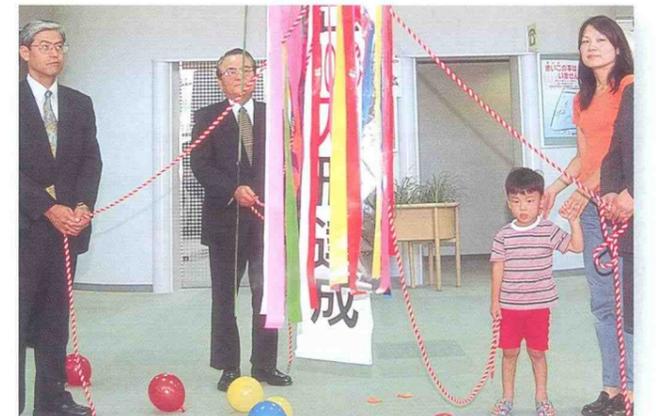
10月29日 市福祉事務所創設50周年記念式典  
昭和26年に設置された同事務所が創設50年を迎えました。  
式典には福祉関係やボランティア団体の代表など289人が  
出席しました



11月2日～3日 第50回おはら祭  
南九州最大の秋祭りが節目の50回を迎えま  
した。3日の本祭りは雨で中止。天文館アーケ  
ードで「ミニおはら祭」が行われました

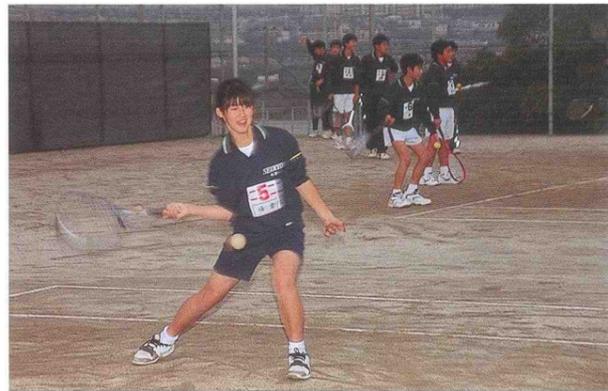
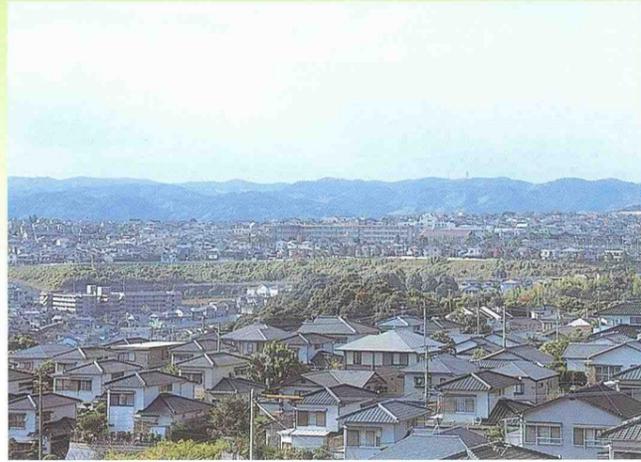


10月10日 優良従業員表彰式  
市内の事業所で働く模範的な従業員104人が表  
彰され、表彰状と記念品が贈呈されました

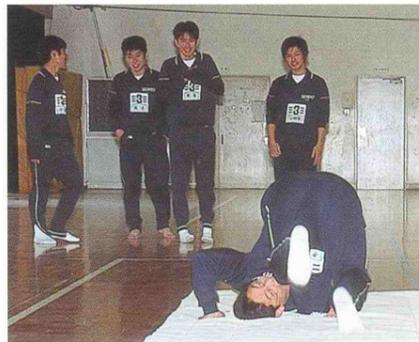


10月11日 市立図書館貸し出し1000万冊達成記念セレモニー  
西陵七丁目から来館した森裕子さんと豪くんが1000万冊目。  
突然のことでびっくりしながらも、うれしそうでした

標高100m。西陵のゆるやかな丘陵の中心部に位置する



ソフトテニスは、県大会優勝などの輝かしい戦歴を誇る。本年3月には、女子チームが全国大会に出場する



後転は難しい



PTAのバザー。盛大な人出でにぎわった

2年生の総合学習は「平和学習」がテーマ。CS(クリエイティブ・セイリョウ)発表会では、太平洋戦争時の生活を調べた展示や合唱、ダンス、劇などの舞台発表が行われた



創立 昭和59年4月6日 生徒数 650人(平成13年12月1日現在)

# 学校探訪

# 西陵中学校



「青雲の像」。男女卒業生それぞれ一人がモデル。後輩を見守っている



先生の話は一言たりとも聞き漏らさない



「クリスマス 今年も一人 寂しいな」



現在、校庭では雨水貯留施設の工事が進められている



元気に登校。校区は西陵一〜八丁目、田上八丁目、西別府町・小野町・五ヶ別府町の一部となっている



毎朝7時30分から行われているボランティア活動。学校の周囲を掃除している

# 城山からの眺めに思う 「鹿児島も捨てたもんじゃない」

高校生のころ、鹿児島は刺激がなくて田舎町だと思っていました。絶対出て、都会に行こうって決めていました。東京から帰るときにも、友人たちから「都落ち」なんていわれ

県外の知人を連れて来て桜島や市街地を見せる機会も多くて、鹿児島のことを思う場所になっているみたいですね。

夜、ホテルのラウンジからお酒を飲みながらゆくり市街地を眺めるのが好きです。仕事柄、百万ドルの夜景といわれる香港や札幌の夜景も見ました。うわさに違わぬ華やかさですね。東京の夜景もそうです。でも、まちの夜景にはそれぞれいいところがあって、個性を感じます。

## 城山

こうやって見下ろしながら、市内には路面電車は走っているし、びっくりするくらい数の温泉もある。まだまだいろいろの良さがあるのになと思ったりしています。

ただ、鹿児島にいと空気がのんびりというか、競争がないからか安きに流れてしまう恐れがあって、そこはいつも気をひきしめています。「まあいいか」と思うようになったときは負けだよ。

夜景を見下ろしながらよく思い出す言葉が、「実るほど、頭を垂れる稲穂かなです。亡



読める、おしゃやかな情報誌を作りたい、という夢が生まれたんです。

「LEAP」を創刊してから11年が経ちました。鹿児島を拠点にして定期的に東京に行つて取材をしたり、新しい情報を得たり。これでよかったなと思つています。東京の友人たちも賛助だよつて。

鹿島の先端・東京の情報と、鹿島のまちの情報が一度に

鹿島を離れた経験が鹿児島島の個性に気付かせてくれました。欠点のないまちはないんです。だから良いところを見つけて、プラス思考でいきましょう。

鹿島にいと空気がのんびりというか、競争がないからか安きに流れてしまう恐れがあって、そこはいつも気をひきしめています。「まあいいか」と思うようになったときは負けだよ。

夜景を見下ろしながらよく思い出す言葉が、「実るほど、頭を垂れる稲穂かなです。亡

# 私の好きな場所

My favorite Place



情報誌「LEAP」編集長  
西 みやびさん

鹿児島市内の高校を卒業後、東京で大学生生活と新聞記者生活を経て12年前に鹿児島に戻る。直後、20代～30代の男女をターゲットに、鹿児島から発信する情報誌を創刊。発刊135号を数える。

父が私によく言ってくれました。忙殺されるような日々ですから、時々こうやって城山からの眺めを楽しみながら、原点を確認しているのかもしれない。

最後に、鹿児島が「人が安らぎを求めて訪れるまち、そして若い人が活気のあるまちであつてほしい」と西さん。「人をいつも中心にされている」ことを感じました。

これからも若い世代に「鹿児島も捨てたもんじゃない」と思わせる鹿児島再発見の作業を続けていかなければならないでしょう。



▲鹿児島で最も刺激的な町、天文館。西さんもここを歩いて情報を探す

登録文化財

# 鹿児島市役所本館

文／画 第一工業大学教授  
田良島 昭



アーチや柱が重厚さを今に伝える

昭和十一年十一月、国会議事堂が完成した。

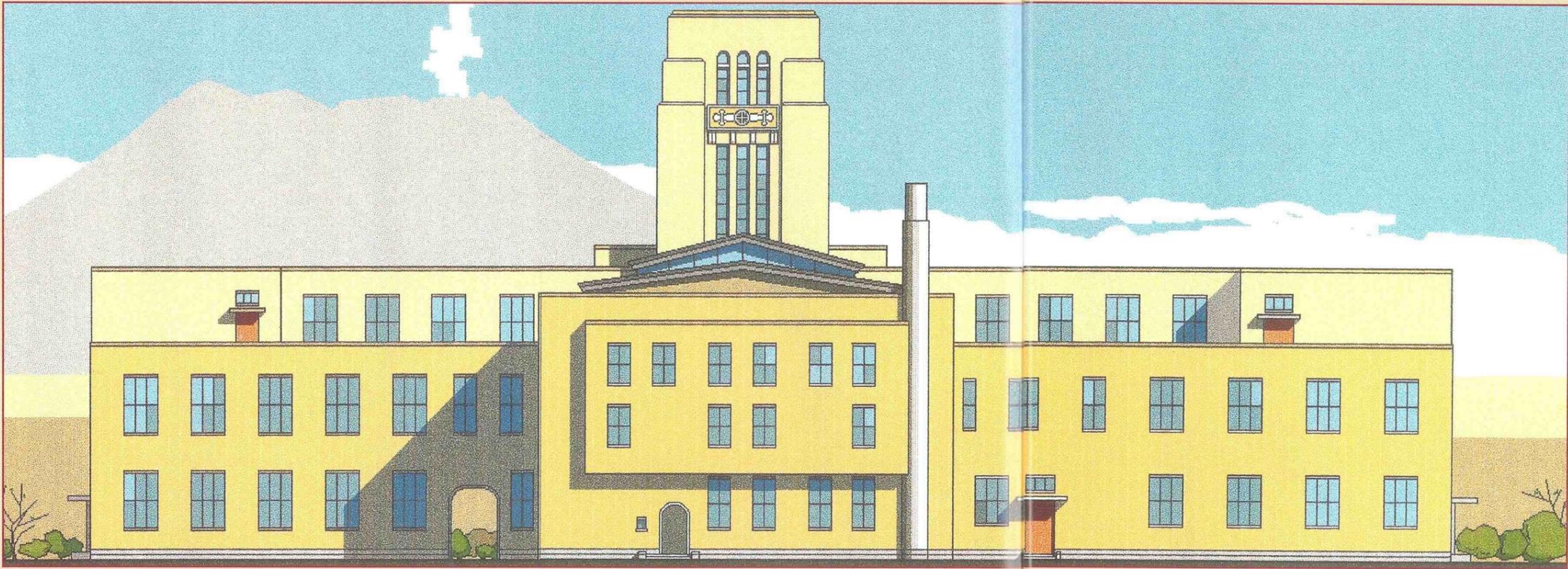
この国家的プロジェクトは、我が国にとつて明治の始めごろからの大きな懸案だった。それが、当時の鹿児島と特別の関わり合いがあるとは到底考えられないのだが、実は、不思議なところで鹿児島市役所の建設につながっているのである。

国会議事堂は、その完成までに四十年の歳月を費やしているのだが、鹿児島市役所もその翌年に完成するまでに十二年の長い年月を要している。その期間が長いか短いかということ

になると、戦前と最近では感じ方が全く違うのだろうか、当時の建設に要した歳月というのは、どうやら、今でもコソコソと造り続けられているバルセロナのサグラダ・ファミリアに見られるヨーロッパ型の年月ということができないだろうか。

国会議事堂の完成に費やされた四十年というのは、文明開化に行き合合わせた明治の日本建築のあり方が論じられた時代であり、それまで木造の伝統しか持ちあわせていなかった日本の建築に、欧米の新しい技術を如何に取り込むかというのが大きな課題だった。

## 国会議事堂と同じ様式の流れをくむ



建築当時の建物を城山側からCG(コンピューター・グラフィックス)で描いたもの

国会議事堂というのは、その上で我が国近代建築の集大成だったのである。

では、その国会議事堂の完成が、鹿児島の市役所にどう関わってくるのかというところであるが、それは、国会議事堂の設計を担当した大蔵省臨時設計部の設計スタッフが、議事堂の完成後、鹿児島市役所の設計にあたったということである。もちろん、建物の規模が違うので、こちらの設計に参加したのはスタッフの一部だったのだろうが、そんなことを聞いた上で、改めて市役所の建物を見ると、国会議事堂に似ていないこともない。

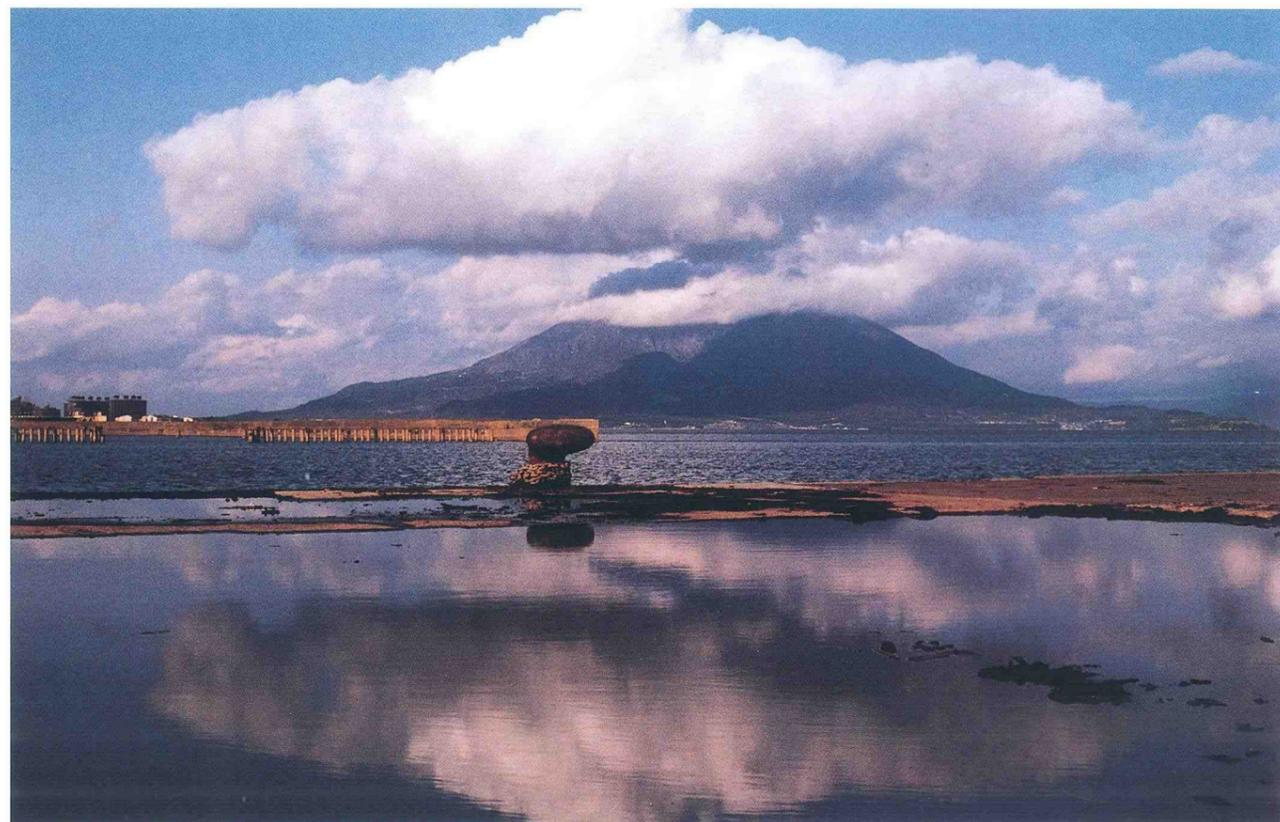
これは似ていて当然なのである。両者に国と市の違いはあつても、ともに行政の建物であり、この種の建物というのは、洋の東西を問わず、威厳を保持するために建物の正面をシンメトリ(左右対称)にするというのが、そのころのデザインの一般型だったからである。この二つの建物に限らず、このころの公共建築はシンメトリのものが多く、

ところで、この建物が完成した昭和十二年というのは、日本にとって運命的とも言える年でもあった。それまで泥沼化していた日中間の紛争が、

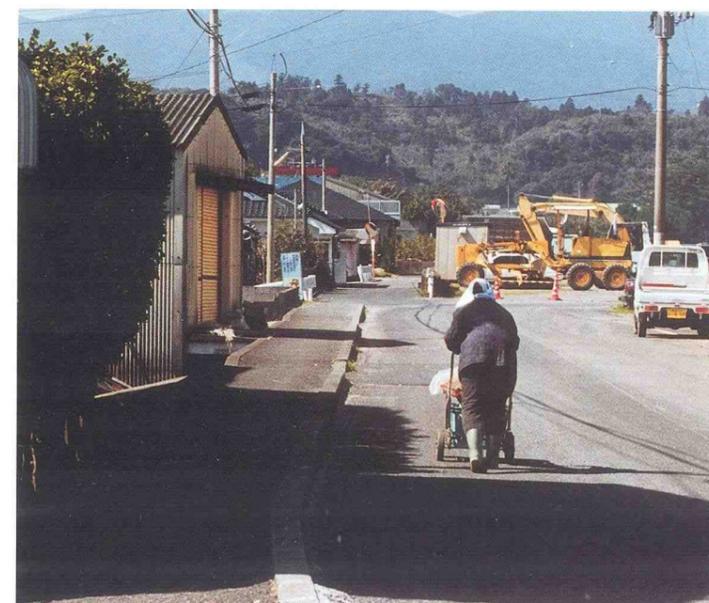
盧溝橋事件ろこうきょうをきっかけに、事変という名の本格的な戦争に突入していった年でもある。当然のことのように私たちの日常は、欲しがりません勝つまではなどと、極端に耐乏生活が強要され、あらゆる面で軍事需要が優先させられていた。このような建物の新築どころではない時代に、不思議なことに、鹿児島ではこのころ建てられたRC(鉄筋コンクリート)造の建物が意外に多い。ここには、世界的な経済恐慌のあと第二次世界大戦までの間に、束の間の建設ラッシュがあつたのだろうか。

### 昭和期の戦前に建てられたRC造の建築

昭和二年	鹿児島市中央公民館	現存
昭和三年	鹿児島県立図書館	現存
昭和三年	鹿児島新報社	
昭和三年	安田銀行支店	
昭和四年	山形屋別館	改修現存
昭和五年	県立第二鹿児島中学校(現甲南高校)	現存
昭和六年	福徳ビル	
昭和八年	鹿児島県教育会館	現存
昭和八年	鹿児島測候所	
昭和十年	県立第一高等女学校(現中央高校)	現存
昭和十年	鹿児島放送局	
昭和十一年	日本瓦斯本社	現存
昭和十一年	高島屋百貨店(現高プラビル)	改修現存
昭和十四年	農協連合館	
昭和十四年	鹿児島歴史館(戦後市美術館)	



「雲浮かぶ」 下田平 久美子さん



「行商」 徳留 やすこさん

## 「早春」

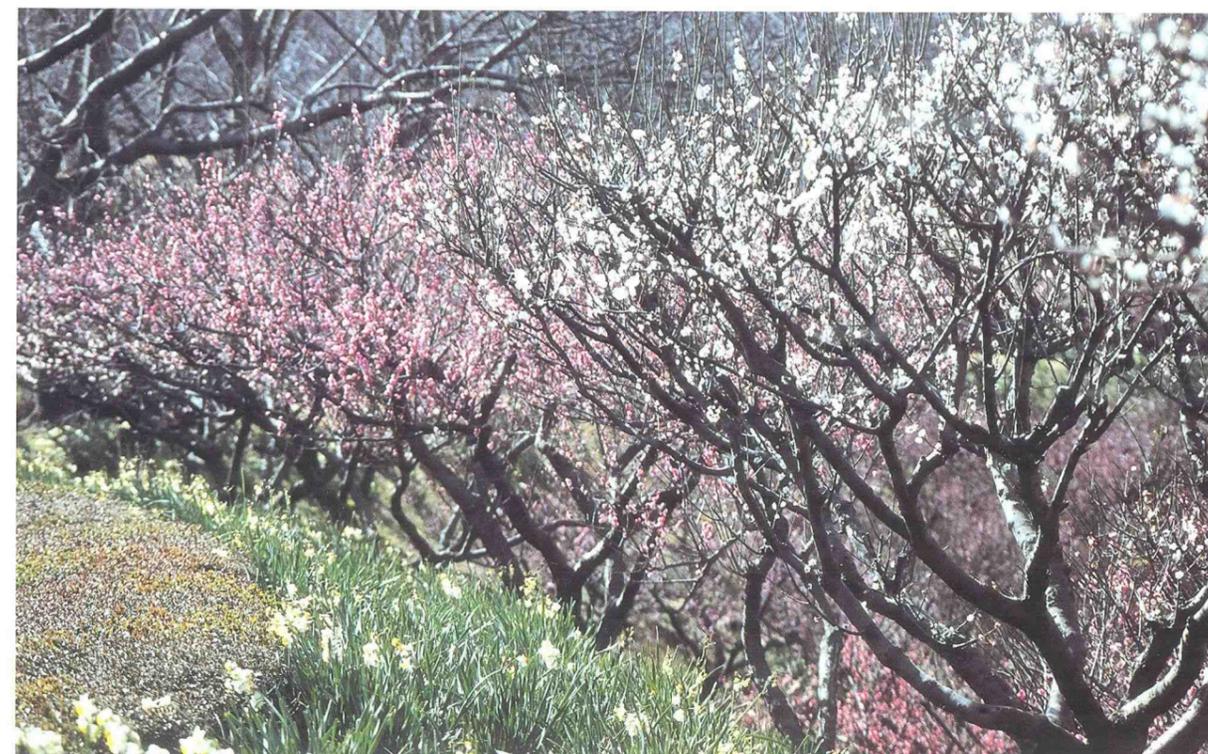
鴨池写友会



「大根干しの頃」 宮内 一誠さん



「田ノ神のオトオリ」 安藤 正男さん



「早春賦」 伊藤 喜代子さん



YOKA TIME  
よかタイム

## バイクツーリング

稲盛 勝也さん

大型バイク特有の太いトルク音とともにさつそうと現れた稲盛さん。「バイクは家族同様。手入れはまめにしているよ。車はほつたらかしなんだけどね」。ヘルメットを脱ぎサングラスを外すと照れたような笑顔がこぼれました。

よかタイム  
5つの質問

Q1 きっかけは？

本格的に始めたのは12年ぐらい前から。息子が熊本からバイクで帰省したのを見てうらやましくなり、次の日に自分のバイクを買いに行っただですよ。

Q2 愛車の紹介を…。

今のバイクは3台目で、排気量は1500cc、重量は350kgを超えます。どっしりと安定しているけど、こけたら一人ではなかなか起こせないね。

Q3 バイクツーリングの魅力は？

クラブの仲間と走るのもよし。一人でのんびりとハンドルを握るのもよし。風を切る爽快感はたまりません。

Q4 お気に入りの場所は？

季節ごとに彩りを変える霧島、東シナ海に溶け込む夕日が見える野間池などをツーリングすると心がリフレッシュします。

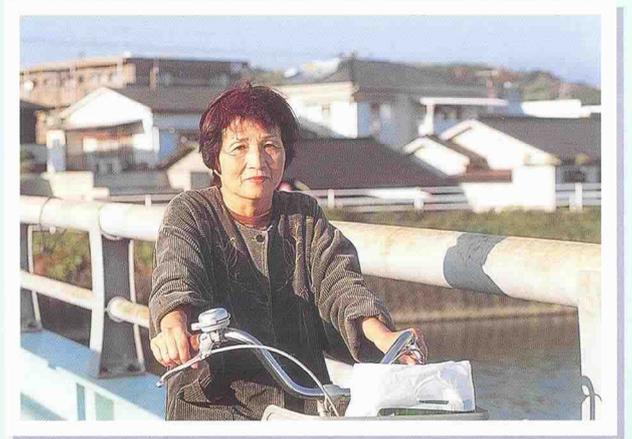
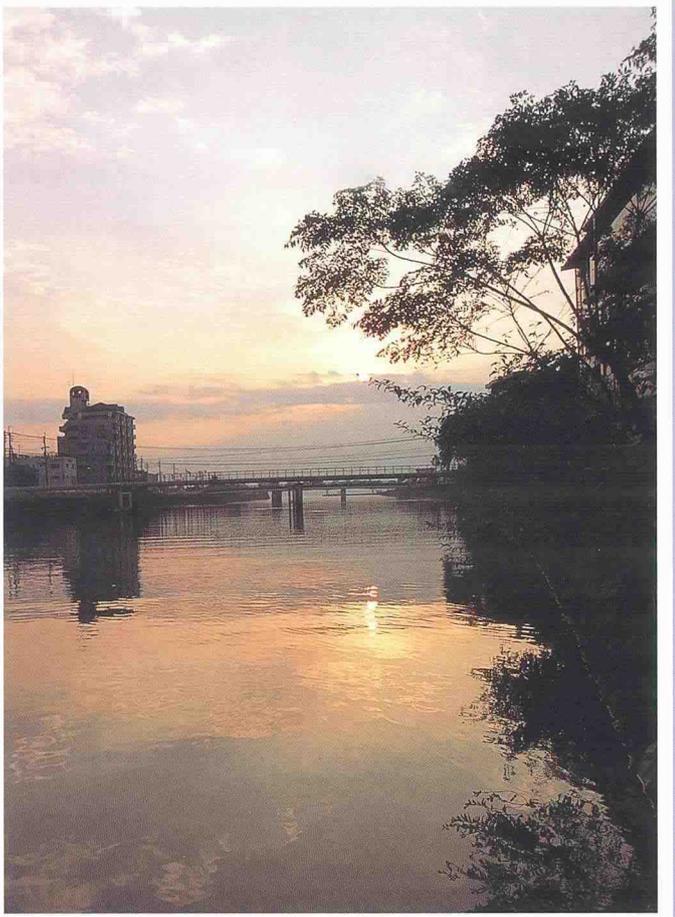
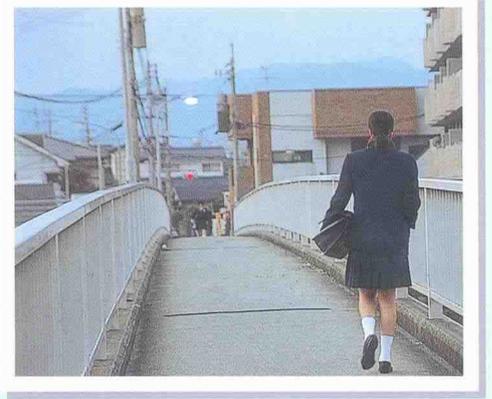
Q5 これからの抱負は？

我々のクラブは交通安全キャンペーンの先導隊もつとめています。これからも交通ルールを守って、他のドライバーの模範になるよう心がけていきたいですね。



# 街角

ウォッチング  
～永田川周辺～





▲オート三輪が行き交う青果市場(昭和34年)

# 「オート三輪」



昭和39年製オート三輪

舗装されていない道を、土埃を巻き上げて走るオート三輪の雄姿は、40歳代以上の人とつとて、郷愁とともに、まだバイタリティーあふれる戦後の一時期を思い起こさせます。オート三輪は、バイクに幌をかぶせて後ろを二輪にし、大きな荷台を付けたもので、簡単に言えば屋根の付いたバイクとでもいったものでした。

小回りがきいて路地裏まで進入できるので、いたるところで見ることができました。反面、不安定で、急ハンドルを切ったら横転することもある。本来バーハンドルで一人乗りでした。丸ハンドルで二人乗りのものも後には登場。写真のオート三輪もその一つで、昭和39年製です。

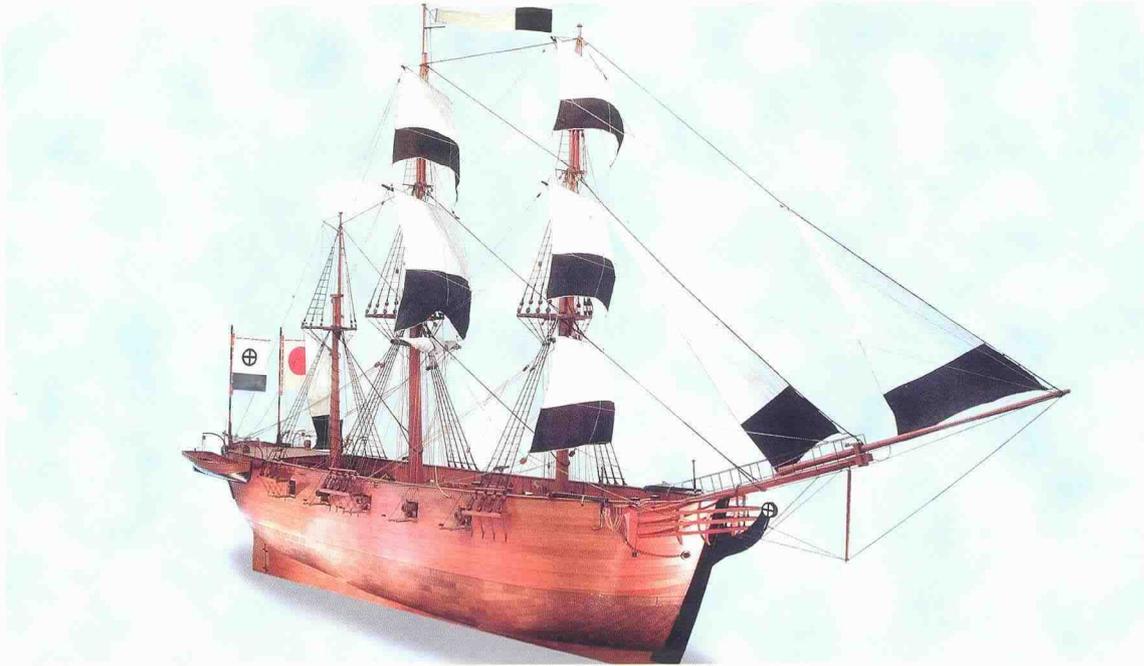
この車は樋脇町の精米所で使われていま

したが、所有者が亡くなった後、形見として大切に保管されてきました。現在の持ち主の脇黒

丸正己さん(山田町)

は一昨年3月この車を譲り受けました。「無骨なデザインがたまらないですね。まだまだボディもしっかりしているし、これからも大事にしていきたいです」。経済成長を支えた昭和の証人がまぶしく感じました。

## 維新ふるさと館 「昇平丸」



模型縮尺1:10

薩摩藩第28代藩主島津斉彬は、当時欧米列強のアジア進出に最も早く敏感に対応した藩主でした。1853(嘉永6)年、藩士田原直助にオランダ造船書を研究させ、我が国最初の洋式帆船の軍艦「昇平丸」を完成させました。艦には、左・右両舷にそれぞれ5門の大砲を装備していましたが、普段はこの大砲をはずして輸送船として使われていました。

1855(安政2)年2月、昇平丸は鹿児島から江戸へ向けて出航。この時「日の丸」を掲げ、日

本の船印としました。この「日の丸」が後に日本の国旗となります。帆の下方の黒色は、薩摩藩の船を表す印です。

その後、この艦は、幕府に献上され「昌平丸」と改名されました。長崎の海軍伝習所の練習船として、また明治政府の北海道開拓使の輸送船として活躍。1870(明治3)年、江差付近の海岸で座礁し、その先駆的役割を終えました。

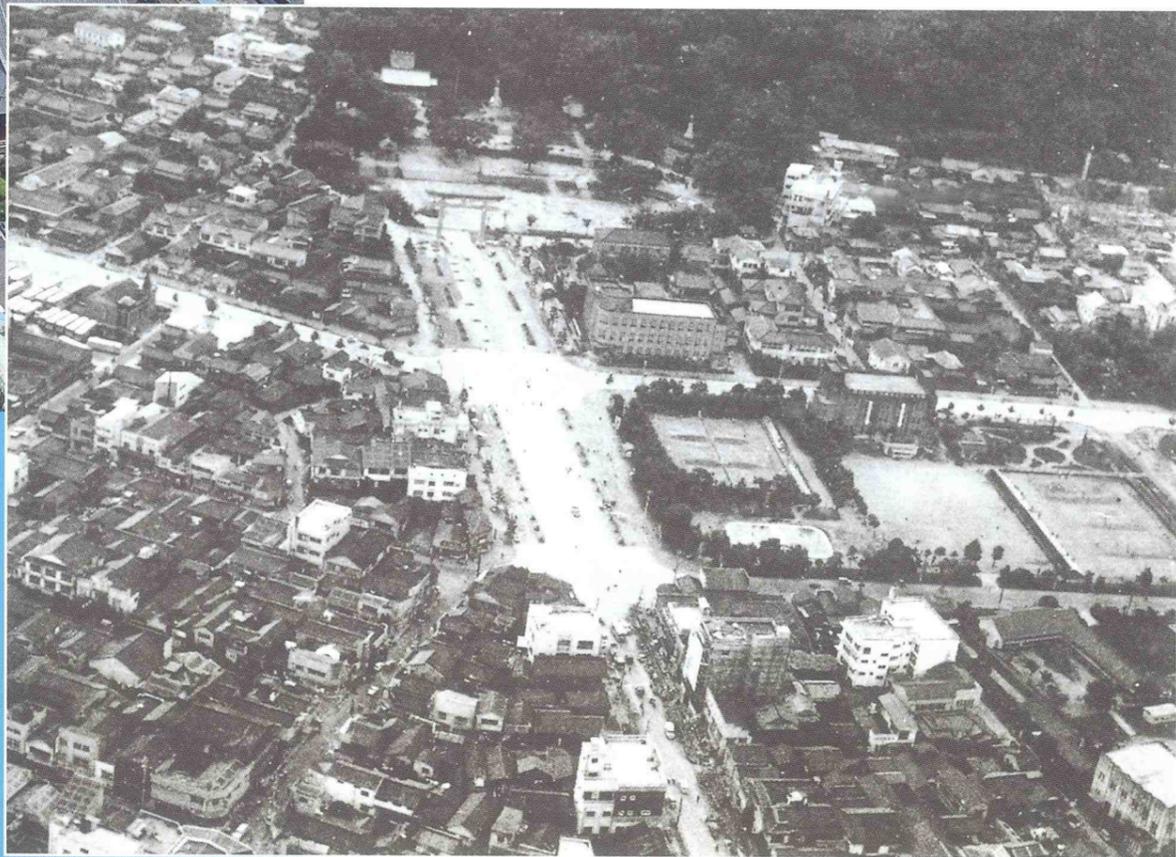
(維新ふるさと館歴史解説員 丸野 泰)

### ※昇平丸

起 工 ……1853(嘉永6)年5月  
竣 工 ……1854(安政元)年12月  
型 式 ……3本マスト・パーク型  
トン数 ……225総トン  
長 さ ……27.27メートル  
幅 ……7.58メートル  
造船所 ……桜島瀬戸村造船所  
(現在の鹿児島市黒神町)



# わが町上空 今むかし



昭和36年

## 中央公園付近

昭和25年に開設された中央公園は、ソフトボールやテニスを楽しめる場でした。

この公園が緑と水と光をテーマに生まれ変わったのは平成6年。春は芝生でお弁当を広げる家族連れ、夏は水と戯れる子どもたち、秋は色づく木々の下で一息つく人、冬は日だまりで肩を寄せ合う恋人たちと、市民に親しまれています。

国道10号を挟んだ向かいには、昭和2年に建てられた県立図書館(現、県立博物館)が見えます。

照国通りの変わりよつは隔世の感があります。

城山の緑は今も昔も変わらない鹿兒島のシンボルです。

現在

編集発行／鹿児島市広報課

鹿児島市山下町11の1

電話 216・1133

印刷・レイアウト／渚上印刷株式会社

